

## ◆部門別動向

### 米

本県の稲作は、4月に田植えをして8月に出荷する県東部地域を中心とする早期栽培から、7月初めまで田植えをして10月に出荷する県北部地域の小麦あと栽培など多岐にわたり、それぞれの地域の条件を生かした米づくりが展開されています。

中でも、本県で育成した「彩のかがやき」は、複数の病害虫に抵抗性がある特性を生かした減農薬栽培を基本に、安全・安心でおいしいお米として、多くの県民から支持されています。

また同じく本県で育成した「彩のきずな」は、減農薬による安全・安心な栽培はもちろん、もっちりとした食感が特徴のおいしいお米として、作付面積を拡大しています。

■ [29年産（水稲）]

作付面積	生産量
31,600ha (全国第18位)	156,100 t (全国第19位)

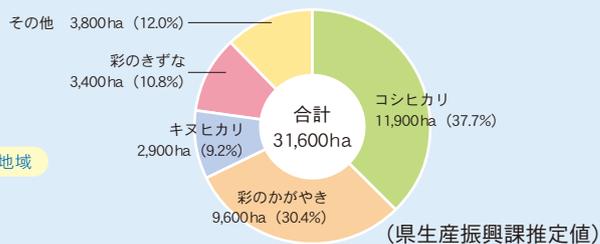
(農林水産省統計部調べ)



■地域別  
水稲栽培方法



■水稲うるち米品種別作付面積割合（平成29年産）



■水稲生産の推移



(注) 陸稲を含まない (農林水産省調べ)

### 麦・大豆

本県は麦の主要な生産県となっており、中でも小麦については、これまで製粉業界等の実需者から比較的高い評価を得てきました。

このため、県では、今後とも実需者の要望に応えられるよう高品質な麦の生産技術の普及・定着やパン用小麦など新たな需要に対応した品種の導入を図るとともに、規模拡大等による生産性の向上を推進しています。

大豆は、麦とともに水田における重要な転作作物として生産されてきました。近年、農商工連携の取組により加工品が開発され、特徴ある在来品種の作付が増加しています。

また、平成23年度から本格実施されている経営所得安定対策の活用により、麦・大豆の一層の生産拡大を進めています。

■ 29年産

	作付面積	生産量
麦類	6,190ha (全国第10位)	24,900 t (全国第7位)
大豆	679ha (全国第29位)	930 t (全国第28位)

(農林水産省統計部調べ)



■麦類生産の推移



(農林水産省調べ)

## 野菜

本県の野菜生産は、農業産出額の約半分を占め、主要な作目となっています。主な産地は、さといもやほうれんそうなどの産地である入間地域、ねぎやブロッコリーなどの産地である大里地域、なすやレタスなどの産地である児玉地域などです。

また、周年的に野菜を供給するため、施設栽培も盛んで、大里・児玉・比企・北埼玉地域を中心に、きゅうりやいちご、トマトなどの栽培が行われています。最近では、農業競争力強化プログラムの決定など農業構造を大きく変える政策転換が進められており、国内外の産地間競争の激化が予想されています。このため、県では、農作業の省力化による低コスト化や集出荷体制の合理化による高品質な野菜の生産拡大、消費者や食品製造業者などの多様なニーズに対応する産地づくり、ICT等先端技術を使った施設園芸などを進めています。

■ 28年産

作付面積	収穫量
16,100ha	369,793 t

作付面積：農林水産省統計部調べ  
収穫量：県生産振興課調べ

### 省力化機械の導入による農作業の低コスト化



ねぎの収穫機による省力化

### 多様なニーズに対応する産地づくり



加工用エンジンのは種作業

### ■主な野菜の作付面積（平成28年産）



## 果樹

本県の果樹生産は、なしが果実産出額の約60%を占め、全国第6位（平成27年）となっているほか、ぶどう、くり、うめ、かき、ゆず、すももなど多様な品目が生産されています。

また、近年ではブルーベリー、いちじくなど新しい果樹の植栽も進んでいます。

■ 28年産

品目	作付面積	収穫量
なし	409ha	8,510t
ぶどう	172ha	1,480t
くり	678ha	617t
ブルーベリー	41ha	70t
いちじく	13ha	132t

(農林水産省「果樹生産出荷統計」)(県生産振興課調べ)



本県が育成した大きくて甘い梨「彩玉」



渋皮が簡単にむけるくり新品種「ぼろたん」

## 茶・特産物

本県の特産品である狭山茶は、入間市、所沢市、狭山市を中心とする県西部地域において栽培されており、農家自ら生産から販売までを行う形態が主流となっています。

また、繭、こんにやくなどの特産物は県西北部の山間丘陵地域において、気象・土地条件を生かした特徴ある産地づくりが行われています。

	栽培面積	生産量 (収繭量)
茶 (29年産)	871ha (全国第8位)	生葉 3,280 t (全国第12位)
繭 (29年産)	—	8 t (全国第4位)
こんにやく (27年産)	27ha (全国第8位)	466 t (全国第4位)

茶 : 農林水産省統計部調べ  
 繭 : (一財)大日本蚕糸会調べ  
 こんにやく : 農林水産省統計部調べ



狭山茶の主産地に広がる茶畑



埼玉県オリジナル蚕品種「いろどり」繭の出荷

## 畜産

本県の畜産は、野菜、米と並んで本県農業の基幹部門となっています。近年は、自給飼料の生産拡大や病気の予防による生産コストの低減、付加価値の高い特色ある畜産物の生産・加工も行われています。

また、生産県であると同時に大消費県であるという本県の特徴を生かし、ふれあい施設や直売施設を設置するなど工夫を凝らした経営や、消費者との交流に積極的に取り組む経営者も増加しています。

	飼養頭羽数 (平成29年度)
乳用牛	9,220 頭 (全国第22位)
肉用牛	17,800 頭 (全国第33位)
豚	99,600 頭 (全国第24位)
採卵鶏	成鶏メス 2,452 千羽 (全国第22位)

(農林水産省「畜産統計」)



「彩の国黒豚」ソーセージ



「彩の国地鶏 タマシャモ」

## 花・植木

本県の花植木生産は、深谷市を中心とする県北地域のユリ、チューリップなどの球根切り花や「安行の植木」として全国に名を馳せる県南地域の植木・盆栽類、鴻巣市などを中心とした鉢花や花壇用苗物など全国でも有数の産地を形成しています。

近年では、アジサイやポインセチアが児玉地域を中心に生産され、全国トップレベルの技術を確立しています。

県では、花植木の需要拡大を図るため、花育の推進や花植木商談会、産地見学会の開催について支援を行っています。また、県が育成した芳香シクラメンの安定生産や切り花など日持ち性向上対策への取組、公園や道路等の緑化を行うボランティアの育成、夏に適した品目の選定や展示・植栽方法を提案する「夏色花壇提案プロジェクト」もすすめています。

■ 27 年産

栽培面積
932ha

農林水産省「花き生産出荷統計」  
及び「花木等生産状況調査」



県が育成した芳香シクラメン



小学生を対象とした花育教室



夏色花壇提案プロジェクト

## 水産

本県の水産は、養殖業と河川漁業に分けられます。養殖業については、キンギョ・ニシキゴイなどの観賞魚が主体で、本県は全国でも有数の生産県となっています。また、ホンモロコやナマズなどの食用魚も水田を利用して生産されています。

特に、ホンモロコについては、販路拡大を図るため、付加価値の高いホンモロコ生産に取り組んでいます。

河川漁業については、釣りが県民のレジャーとして定着しており、漁業協同組合が魚類の増殖等を図るとともに、河川や湖沼等の魚場の管理を行っています。

■ 28 年産

漁業養殖業生産量
232t

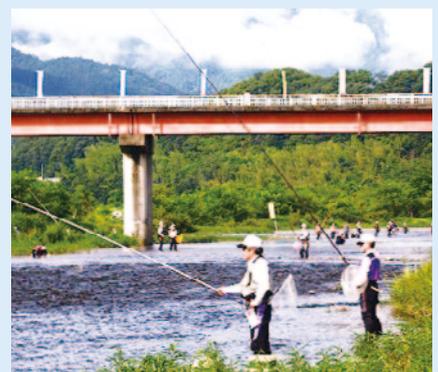
(県水産研究所調べ)



キンギョ



ホンモロコ



アユ釣風景